

## 3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

## (1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

1. 本研究科は、21世紀COEには平成14、15年に、現代GPには平成18年、教員養成GPには平成18年にそれぞれ申請してきた。これらは採択されなかったが、平成18年度国際化推進プログラムGP（海外先進研究実践支援）には採択された。ポストCOEに向けて、①若手教員による次世代の教育学研究を推進する研究会を定期的で開催し、かつ②上記の不採択課題「知のモジュール化とネットワーク社会の形成」を修正し、科研費研究として採択され、研究分野横断的なプロジェクトを実施し、今後のポストCOEへの準備を進めている。
2. 教育の高度化に伴い、大学院修了者が専修免許状を取得して教員に採用される進路が着実に伸びている。そのため本研究科が中心となり、東北大学ブランドの優れた教員を育成するために学内各研究科の協力を得ながら、教育専門職大学院を設置する組織改編の取り組みを行った。文科省の助言により、平成19年度の開設は見送られたが、20年度設置に向けて鋭意検討中である。
3. 全学の教育研究への協力は、荒井研究科長が高等教育開発推進センター副センター長として高等教育研究の開発推進に協力しているほか、全学の学生支援のため、臨床心理士資格をもつ教員が学生相談所の相談員を兼務し、相談事業を支援している。

## (2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

- 本研究科を拠点に、「教育史学会」(H17. 10. 8-9)、「日本教育行政学会」(H17. 10. 14-16)、「日本教育経営学会」(H18. 6. 2-4)、「日本教育学会」(H18. 8. 23-25)、「日本テスト学会」(H18. 8. 26-27)など教育学関係の主要学会が開催され、研究成果を内外に発信した。
- 米国UCLA・CRESTと学術交流協定を締結した。(平成18年8月28日)
- 本学創立百周年記念事業の一環として、本研究科主催で英国・米国から研究者を招聘し、「グローバル化の時代における新たな人間像と教養教育の創造」をテーマに国際シンポジウムを開催した。(平成18年3月20日)
- 総長裁量経費による「東北大学の学問風土の研究」の一環として国際シンポジウム「アジアからみた東北大学の学問風土」を企画し、基調講演「独創への期待—学問の自由と多様性受容」(庄子哲雄理事)、シンポジウム「留学生からみた東北大学」を実施した。(平成17年12月9日)
- 「臨床心理相談室」主催で臨床心理士研修を実施し、臨床心理士の職能成長に貢献した。
- 途上国(モンゴル)への教育支援を行い、学校体系の整備、教育課程の作成、施設・設備の充実などに貢献した。
- 宮城県及び仙台市教育委員会と提携し、本学の全ての学部学生を対象に、小中高への学校ボランティア派遣事業を実施してきた。